

本論文は

世界経済評論 2021年3/4月号

(2021年3月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%
送料無料
OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読

☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン販売

統計の歴史

元いわき明星大学講師 末永 茂



[著者] オリヴィエ・レイ (Olivier Rey)

[監訳] 池畑奈央子 / [監修] 原 俊彦

[発行] 原書房, 2020年3月刊

[判型] 菊版, 300頁

[定価] 本体 3600円+税

著者は数学者、哲学者、エッセイスト。1964年フランス生まれ。専攻は非線形偏微分方程式。現在、パリ第一大学で哲学を教えている。

本書は社会の実態把握を試みるために我々はどうのように格闘してきたのか、というテーマを扱っている。統計表は数字の羅列であり、数量的把握と加工を施し有意の判断材料を提供する。数量的概念をほとんど持たない少数部族も現存しているが、歴史的には人口調査によって始まったとされている。これは徴税のために不可欠であり、国家統治の基礎データになるものである。数量概念は個人と「社会に秩序を与える」ものとして発達してきた。そして、1830-50年にはヨーロッパ全域で爆発的に統計の普及が進み、あらゆる分野で利用された。統計万

能時代の出現である。

しかし、これに懐疑的な経済学者も存在していた。J.B. セイは「統計学は単に事実を描写するだけの学問であり、記録されたデータの因果関係を示すことは出来ない」と批判している。19世紀は生産能力が急増する一方で、慢性的な社会的貧困も生み出していた。産業革命による「貧困」とは、非存在者が存在し得るという新しい現象であった。これを背景に A. ケトラーは、天文学や自然科学を援用して統計学を確立した。彼は統計による継続的な観察が社会的不満の暴発を防ぐ機能がある、と指摘している。社会物理学的理解が統計学の基礎を築き、「平均人」という概念を創り出している。これが社会統治の有力な方法になって行く。これに対して、コントの社会学は「方法的個人主義」という観念を重視し、社会の質的考察を進めていく。

他方で、デュルケームの社会分業論は「集合的タイプ」という概念を提起し、個人よりも社会的視点を重視する。さらにダーウィンの進化論はマルサスの『人口論』が決定的なヒントになったとされ、個々人と全体の問題は学問分野を超えて論争の対象になった。経済学分野では A. スミスもダーウィンに大きく影響を与えたとされる。

統計はその後自然科学分野でも採用され、数学の一部門として確立した。特に19世紀の熱力学・エントロピーの法則に統計的理解が持ち込まれたのが大きかった。20世紀になると経済学者ティンバーゲンは物理学に採用された確率論を経済学に応用している。自由主義思想のベースになる個人の判断と社会的存在としての規制の問題は時代を超えて議論になる。その中枢に統計調査と統計学は成立している。ビッグデータ解読に欠かせない書である。

(すえなが しげる)